

札幌学院大学・バリアフリー委員会

みんなでしゃべり場

学生が発案



手話とか
ジェスチ
ャーとか
…

文字でも
伝えられ
るよ！

ろう者とのコミュニ
ケーションってどん
な
な
ものがあるのか
な？

- 開催：月一回
- 目標：障がいについて理解を深める
- 流れ：テーマの設定→意見発表→グループ毎の討論→グループ発表→まとめ
(パソコンテイクや手話も活用)

「障がい」について理解を深める「意見交換の場」！

障がいについて、語って、聴いて、知って、理解して、共通のものに！



講義形式の
意見発表

グループで
テーマについ
て討論



語り合ったテーマの例

- ・「札幌学院大学にある／あったらよいバリアフリー」
- ・「手話を始めたきっかけ」
- ・「手話を使ってみて思ったこと」
- ・「聴覚障がいを抱える学生と出会って思ったこと」
- ・「補聴器体験をしてどう思ったか」
- ・「大学に入って得たもの」

「みんなでしゃべり場」に参加して（教員の感想）

障がい学生支援でも、支援する側とされる側という非対称の関係は当然のことながら存在します。そのような関係では、支援を受ける学生は常に弱者の側に立たされがちで、障がい学生である前に「ふつうの学生なんだ」ということが双方にとっても周囲にとっても気づかれぬまま、アンバランスな力関係の中で支援が行われることがあります。しばしば問題を生じさせることもある、このような事実を乗り越えるのは簡単ではありません。

しかし、学生達のこの取り組みをみていると「不可能なことではないな」と感じさせられます。素朴かもしれないけれど、いったんはそのことを**双方が自覚し**、とりあえずはそれぞれの思いをぶつけ合ってみる、そして、いっぺんには解決できないけど、できそうなことを**実践**してみる、その**積み重ね**が大事なのだらうと思います。このような場を自らで生み出した学生たちの力は本当にすごいなと思います。

問い合わせ先

札幌学院大学バリアフリー委員会 新國三千代 連絡先 (TEL:011-386-8111(代)、nikkuni@sgu.ac.jp)

札幌学院大学バリアフリー委員会学生組織 連絡先 (sgu_bfc@sgu.ac.jp)